

資料編
<福岡市の生物多様性の現状と課題>

第1章 福岡市の特性

1. 歴史の中で培われてきた福岡市の個性

(1) 地理的特性

本市は、東経 130° 24′ 06″、北緯 33° 35′ 24″にあり、九州の北部、福岡県の西部に位置します。朝鮮半島とは対馬海峡を挟み、約 200km程であり、日本の中でも大陸のアジア諸国と近い位置にあります。

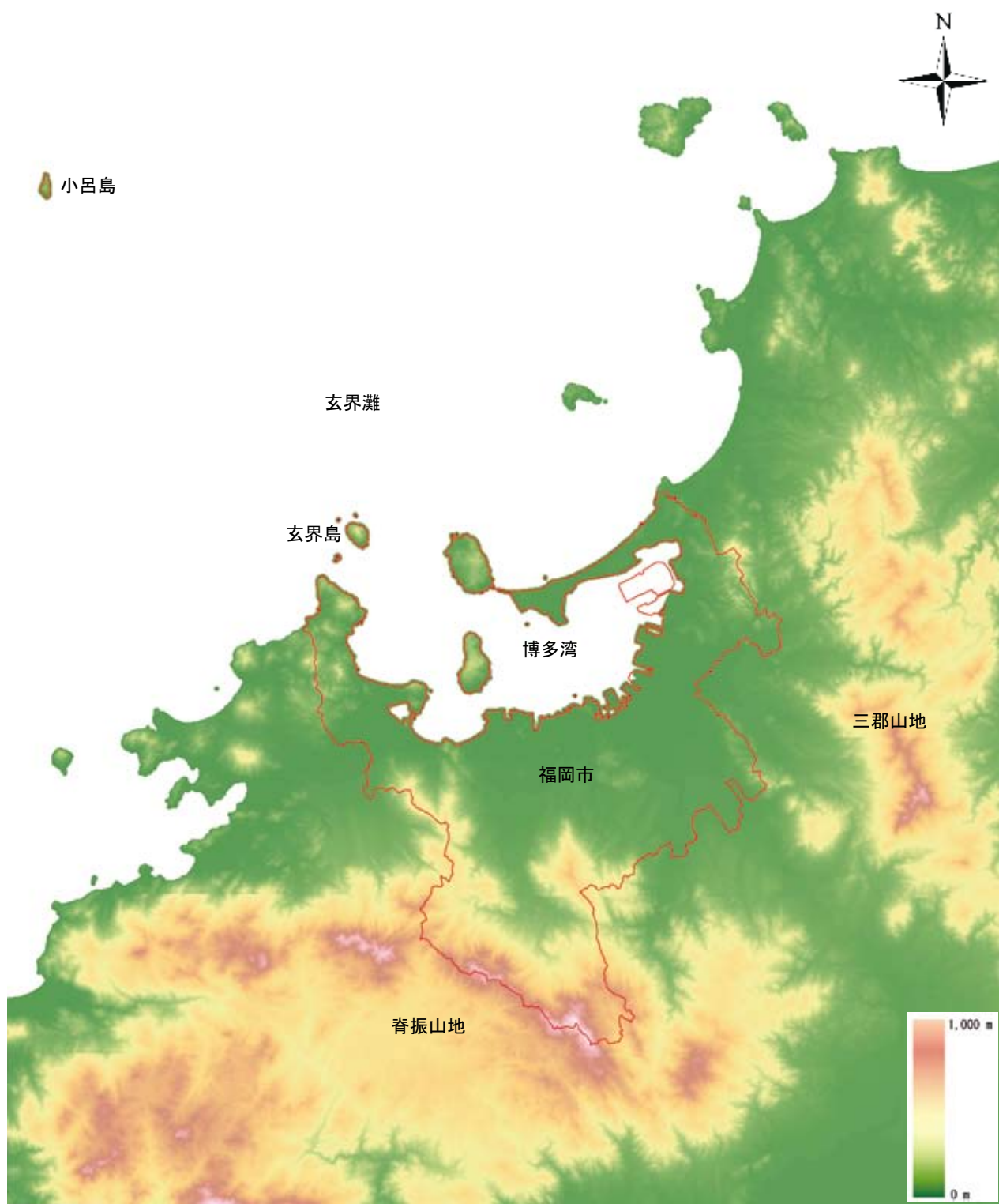
対馬海峡は、水深が 130m程と浅く、過去の寒冷期に海水面が低下し、大陸との間に陸橋が形成されたため、福岡は、大陸から日本へ入ってくる北方系の生きものの通り道となっていました。ヒナモロコは、中国や朝鮮半島には広く分布している魚ですが、日本では九州北部にしか分布しておらず、大陸と福岡が陸続きであったことを証明する魚であるといわれています。

博多湾は、東西に約 20km、南北に約 10km、面積約 133km²の内湾となっており、玄界灘とは西浦～玄界島、玄界島～志賀島の 2箇所の開口部を通じてつながっています。海の中道から志賀島にかけて形成されている砂州は、玄界灘の荒波を防ぎ、博多湾を天然の良港としています。

これらの地理的特性は、古くからのアジアとの交流、貿易拠点としての発展に深く関与しているだけでなく、国内有数の鳥類の渡りの中継地・越冬地として機能するなど、生きものにとっても重要な移動拠点となっています。

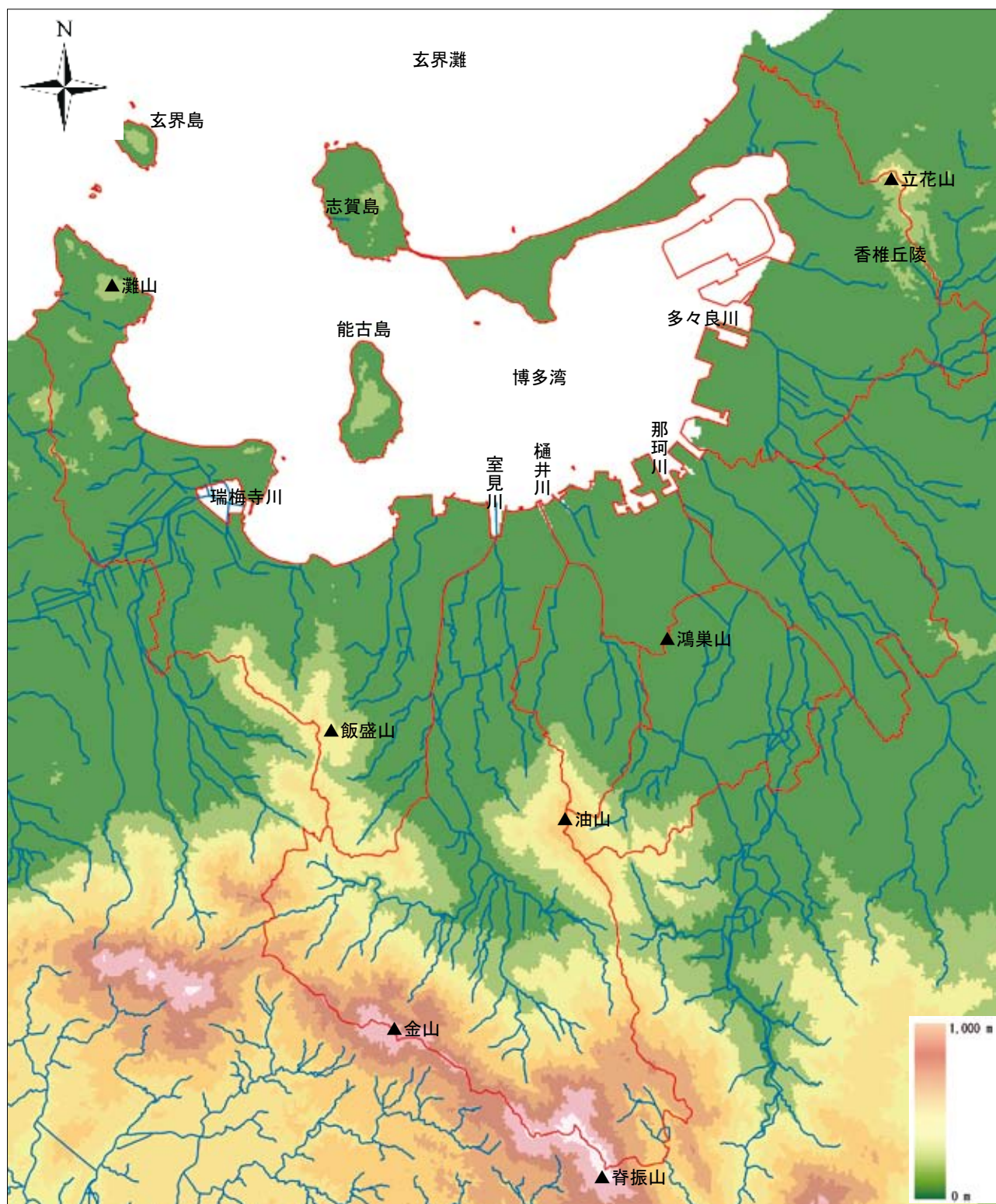
本市が位置する九州北部は、浅海が広がり、陸域から豊富に栄養塩類が供給される豊かな海に恵まれています。四季の変化があり、冬季には季節風が吹き付ける日が多いものの、概して温暖で湿潤な気候によって、豊富な降雨がもたらされ、山から河川、海への水の循環は多くの生きものが存在する基盤を形成しています。

また、多々良川、那珂川、室見川など数多くの河川が流れる福岡平野は、南は脊振山地、東は三郡山地に囲まれた半月型の沖積平野となっています。北は玄界灘に臨み、南の脊振山地は標高約 1,000 mに達し、海拔 0mの沿岸部から高地まで標高差のある地形は、気候や植生の異なる多様な環境を形成し、豊かな自然の恵みをもたらしています。



■福岡市及び周辺地域の地形

資料：数値地図 50mメッシュ（標高）より作成



■福岡市及び周辺地域の地形

資料：数値地図 50mメッシュ（標高）より作成

(2) 福岡市の成り立ち、歴史

1) 縄文時代～弥生時代

瑞梅寺川河口一帯には、縄文時代後期から弥生時代前期にかけての貝塚が分布しており、土器やイノシシ、シカなどの獣骨、ウミナナ、ハイガイ、マガキなどの貝類、アジ、スズキ、イワシ、タイ類などの魚骨が出土しています。土器の底にはドンダリの圧痕が残っており、主食はドンダリなどの堅果類であったと推測されます。この時代の人々は、春から夏にかけて貝を捕獲する漁労生活を中心とし、秋から冬にかけてはイノシシやシカを山野で捕獲する生活をしていたと推測されます※1。

本市は朝鮮半島や中国大陆に近いという地の利に恵まれ、古くから大陸文化の受入窓口としての機能を果たしてきました。志賀島で発見された「金印」は、1世紀ごろの大陸との交流を物語る確かな資料です。

本市一帯には、弥生時代の遺跡が数多く分布し、初期の水田やムラの跡をみることができます。多くの河川と低湿地帯が存在した本市一帯は、大陸から伝わった農耕技術が早くから発達し、集落が形成されていたと考えられます。

これらの遺跡からは、この時代の人々が、本市の豊かな自然を反映、あるいは、その自然を人間が開発・利用しつつ、生物多様性の恵みを最大限利用していたことがうかがえます。この地が早くから開けたのは、新鮮な食べ物が豊富にとれ、人々にとって、気候も温暖で暮らしやすい土地であったからだと考えられます。



■ 弥生から古代にかけての遺跡の分布

出典：筑紫ものがたり 博多二千年史
(1967年、朝日新聞社)

2) 古代～近世

大陸との交流が盛んであったこの地は、さまざまな権益をとまなう外来文化伝来の窓口として、古くから政治的に重要な拠点とみなされてきました。

7世紀から11世紀にかけてはアジアの人々をもてなした迎賓館である「鴻臚館」が交流拠点となり、中世期には海外の商人が多く住む日本を代表する国際貿易都市に発展しました。16世紀には博多の大商人が利を求めて海を渡っています。

1587(天正14)年に九州を平定した豊臣秀吉が博多の町を再興し、「太閤町割」と呼ばれる都市計画を実施して、現在の博多の原型を作りました。

さらに博多を自由都市「楽市」に指定したことにより、「博多」は堺と並ぶ商都として発展しました。

※1: ふくおか歴史散歩 第3巻、1987年、福岡市

江戸時代になって武士の町「福岡」が生まれ、商人の町・博多は伝統工芸や芸どころとして、城下町・福岡は武士の文化を伝える町として、本市は双子都市として発展しました。

この時代の遺構からも、多くの動物の骨が出土しており、この時代の人々も、生物多様性の恵みを利用しつつ生活していた様子がうかがえます。食料としては、近隣の海や河川で採取できる貝類が大量に出土しているほか、マダイやクエ、マグロ類などの魚類、イルカやクジラも多く利用されていました。シカやウシなどの哺乳類や鳥類などは、骨角器として利用されており、筭やヘラ、ボタンなどの服飾具、刀の柄頭や鐔などの武具、双六の駒などの遊戯具、物差しなどの計量具、耳かきやブラシなどの衛生具などが出土しています※²。

3) 近現代

本市が九州地方で最多の人口をもつ都市となったのは、1940(昭和 15) 年になってからです。これは、博多湾の築港が 1937(昭和 12) 年に完成して、貿易が活発化するとともに、戦時中、大陸に通じる軍需拠点として注目され、行政及び経済統制の中心として重要な位置を占める都市となったことが大きな要因です。

4) 現在の情勢

九州・西日本の拠点として、国の機関、大企業の支店、金融・サービス業の集積により発展し、外国公館も多く、国連機関も開設されるなど、国際交流の素地を持っています。

さらに、九州大学をはじめとして、多くの大学が立地することを活かし、国内外の研究者、企業等の連携交流を促進することにより、新しい事業・産業の創出、地場企業の活性化、企業・研究機関等の立地促進を図る産学連携交流センターの設置などの取り組みが実施されています。

商業都市としての性格を強めてきた本市は、支店、地元企業の卸売機能、小売、物流、サービス、金融等の第三次産業を主体とした産業構造を形成しています。九州の中核都市として、本市の発展は、九州地方の発展とも密接にかかわっており、福岡都市圏での連携をはじめ、北九州市との「福北連携」や、鹿児島市、熊本市との三市による交流連携など周辺地域と連携機運が高まっています。

また、人口や経済、貿易の面で飛躍的に伸びている東アジアと本市とは、地理的に近いという特性を活かし、近年、貿易、国際交流などの関係が強まっており、九州と韓国南部地域の超広域経済圏形成に向けた取り組みが実施されています。



海・山・川と自然環境に恵まれた本市は、生物多様性の恩恵を多く受け、食物が得やすく住みやすい土地であったため、古くから人々が定着し発達してきたのではないかと推測されます。早くから大陸文化の受入窓口となっていた本市は、商業都市として栄えてきました。対外交流によってさまざまな異文化と触れ融合してきた歴史から、柔軟性があり、開放的で自由闊達、新しいものを創造しようとする新進の精神に富んだ博多っ子の気質が形成されてきたと考えられます。

※ 2: 人と動物のかかわりを博多遺跡群に探る。市史研究ふくおか第 3 号。2008 年。福岡・尾山

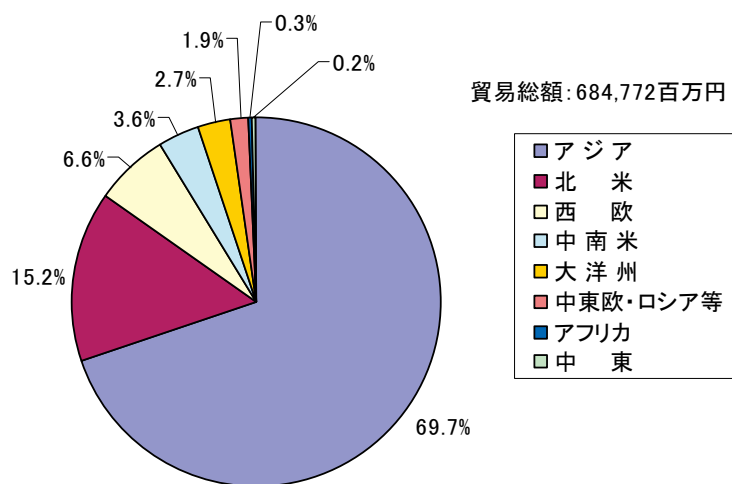
(参考) アジア地域との深い関連

本市は、アジアに近いという地理的特性を活かし、経済発展が著しい中国をはじめとした東アジアと国内各地を結ぶゲートウェイとして重要な役割を果たしています。

福岡空港における 2010(平成 22) 年の入国者数は 48.4万人と国内第 5位、貿易額においても輸出入合計で 9555億円となっており、アジアを中心とした海外 19都市(2011(平成 23) 年 10月現在) と結ばれています。

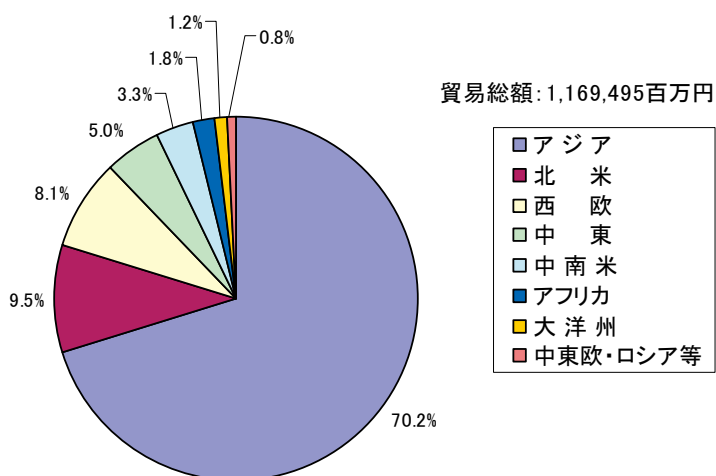
博多港は、神戸港より西では唯一、北米・欧州などの長距離コンテナ航路が就航するとともに、発展著しい東アジアに近接する国際貿易港であり、その恩恵を受け、国際海上コンテナ貨物の取扱量が急増しています。取扱量の内訳としては、アジアからの輸入が約 70%を占めており(2009(平成 21) 年)、アジアへの依存度が高いことがうかがえます。

また、博多港の外国航路乗降人員数は年間約 87万人であり、このうち、韓国(釜山) との定期航路が約 69万となっています(2010(平成 22) 年)。外国航路乗降人員数は、1993(平成 5) 年以降、全国 1位であり、博多港は海外、特にアジアとの交流で重要な役割を果たしています。



■博多港の地域別輸入先(平成 21 年)

資料：福岡市統計書



■博多港の地域別輸出先(平成 21 年)

資料：福岡市統計書

(3) 祭り・伝統芸能

生物多様性の恵みに感謝し、生活してきた歴史が福岡市の文化を形成しています。

東区の筥崎宮で行われる「放生会」は、「博多どんたく港まつり」、「博多祇園山笠」と並ぶ博多大祭りの一つとして多くの観光客を集める祭儀です。放生会とは、仏教の殺生戒に基づき、文字どおり生きものを放ち供養するものです。実りの秋を迎えて、海の幸・山の幸に感謝し、収穫祭・感謝祭の意味も含めた祭儀です。

その他、祭りや伝統芸能の中には、五穀豊穡を祝う奉納舞や、豊作を祈願して行われる行事など、農林水産業が主体であった昔の人々の願いや思いから生まれたものが多数あります。

現在、市内で有形民俗文化財や無形民俗文化財に指定されている祭りや伝統芸能のうち、半数以上の行事が生物多様性の恵みに感謝する、または、生物多様性の恵みを願った行事です。

■福岡市の祭り・伝統芸能

行 事	目 的	概 要	備 考
飯盛神社のかゆ占	豊作の吉凶占い	小正月の朝神前に粥を供えて、半月後にそれを下ろし、表面に生えたかびの状態によって、その年の農作の吉凶を占います。現在は、2月14日に実施。	福岡県指定無形民俗文化財
飯盛神社流鏝馬行事	五穀豊穡・武運長久・無病息災	旧早良郡一帯で信仰をあつめた飯盛神社で10月9日の秋季大祭(くにちまつり)において、五穀豊穡・武運長久・無病息災を祈って行われてきた伝統行事。	福岡市指定無形民俗文化財
石釜のトビトビ	豊作や雨乞いの祈願を込めた行事ではないかとも考えられていますが、目的は不明	小正月に行われる来訪神行事。	福岡市指定無形民俗文化財
今宿青木獅子舞	五穀豊穡の祭典や落成式の際の奉納	怡土城を築城した祝いに、青木地区の住民が獅子舞を奉納したのが始まりと伝えられています。	福岡市指定無形民俗文化財
今津人形芝居	昔は、青年の善導・娯楽を目的に行われていましたが、現在は、地区の活性化を目的	1891(明治24)年3月、隣村の大原にあった大原操り人形の諸道具一式を譲り受け、恵比須座として創設されました。現在は、経験者の指導によって子ども会を中心に継承活動を続けています。	福岡県指定無形民俗文化財
宇田川原豊年獅子舞	豊作祈願	春に豊作を祈願し、獅子舞が演じられます。	福岡市指定無形民俗文化財
香椎宮奉納獅子楽	天下泰平、国家安全、万民豊楽、家内安全	香椎宮の氏子で構成する獅子楽社が、4月17日と10月17日の春秋両大祭に奉納している獅子楽。現在は各17日に一番近い日曜日に行われています。	福岡県指定無形民俗文化財
金隈の蔦の水	子どもの健康祈願・新年の福を招く・火除け・厄除けの祈願	正月に行われる来訪神行事の一つ。	福岡市指定無形民俗文化財
草場の盆綱引き	地獄の亡者を救い出す行事、豊凶を占う行事、無病息災を祈念する行事、畠作の収穫を水神に感謝する行事などの諸説があります。	8月15日に行われる草場の盆行事の一つ。綱引きの勝敗に特別の意味はなく、その後、精霊送りを行い、以前は子ども相撲、盆踊りと行事が続きました。	福岡市指定無形民俗文化財
志賀海神社神幸行事	無病息災、五穀豊穡	志賀海神社は綿津見(わだつみ)三神を祭り、長く海の守護神として北九州海辺の信仰を集めた古社ですが、神幸行事は神社最大の祭礼となっています。	福岡県指定無形民俗文化財
志賀海神社歩射祭	破魔・年占い	1月2日から15日まで行われる年頭の行事。馬に乗らずに弓を射るのでこの名があります。阿曇百足の土蜘蛛退治伝承にちなむもので、破魔の目的と年占の意味を兼ねた神事です。近年では1月15日に近い日曜日に歩射が行われています。	福岡県指定無形民俗文化財

行 事	目 的	概 要	備 考
志賀島の 盆踊り	目的は不明ですが、一般に、 精霊をなぐさめ、それを送ること のほか、たたりをする精霊を 追いやる目的。豊作の祈りなど も併せて込められているといわ れています。	20 年ほど前までは志賀島所在の荘厳寺から踊り始め、その後初盆の家を回るなどして、8 月 13 日～17 日まで踊っていましたが、現在では島の入り口にある渡船場横の広場で、16 日・17 日に踊られています。	福岡市指定 無形民俗文化財
城の原の 盆踊り		8 月 14・15 日に行われる城の原の盆行事は、かつては盆踊り・盆押し・盆綱引きの一連の行事からなっていましたが、現在は盆踊りが行われるのみ。	福岡市指定 無形民俗文化財
田隈の 盆押し・ 盆綱引き	地獄の亡者を救い出す行事、 豊凶を占う行事、無病息災を 祈念する行事、畠作の収穫を 水神に感謝する行事などの諸 説があります。	8 月 15 日、野芥二・三丁目の町内が中心になって氏神地祇神社に奉納する伝統行事。	福岡市指定 無形民俗文化財
田島神楽	干ばつ予防のための万年願	旱魃予防のため、毎年樋井川沿いの薦ヶ淵に捧げた人身御供に代えて神楽を奉納し、万年願として今日まで伝えられています。	福岡市指定 無形民俗文化財
西浦の かずら引き	子どもの無病息災	8 月 16 日に行われる西浦の浜方の盆行事。葛を 50m 程に延ばし、子どもや青年達が左右に分かれ、交互に 3 回程転がします。その際に、藁の鉢巻きをした二人の鍾馗大臣に暖竹で叩かれた子どもは無病息災といわれます。	福岡市指定 無形民俗文化財
能古島 白鬚神社 おくち行事	五穀豊穡	10 月 1 日、4 日、8 日、9 日に島内の江の口・東・西北浦の 4 集落で行われる例祭。	福岡市指定 無形民俗文化財
博多祇園 山笠行事	疫病退散	7 月 1 日から 15 日に行われる鎮守神櫛田神社の相殿に祀られている祇園牛頭天王の祭り。平安時代に始まった京都八坂神社の祇園御霊会が全国に広まったもの。	国指定重要 無形民俗文化財
博多仁和加	目的は不明だが、黒田如水・ 長政親子が藩政に資する手段 としたことに始まるといわれて います。	「にわか」とは「にわか狂言」を略した言葉であり、祭礼において種々の趣向をこらした出し物が演劇化した即興の笑劇。	福岡市指定 無形民俗文化財
博多 松ばやし	祝賀行事	5 月 3 日・4 日の博多どんたくの中で行われています。本来は小正月の行事で、新しい年に祝福をもたらす歳神を迎える民俗行事を芸能化したもの。	福岡県指定 無形民俗文化財 選択無形民俗 文化財
筥崎宮 神幸行事	無病息災、五穀豊穡	筥崎宮で行われる放生会の期間中に、西暦奇数年 9 月 12 日～14 日に 500 名前後の行列で巡幸します。放生会は「万物の生命をいつくしみ、殺生を戒める」という神事。	福岡市指定 無形民俗文化財
はやま行事	目的は不明ですが、人為では 決定しがたい事象を神慮に委 ね、合理的な解決を図ろうとし たものと考えられます。	11 月 19 日に奈多志式神社の開き大祭に奉納される行事。奈多にある西方、前方、牟田方、高浜の 4 地区のうちの 2 地区の若者が塩鯛を素早く料理して神に献饌する早さを競うもの。	福岡県指定 無形民俗文化財
元岡 祇園ばやし	五穀豊穡、無病息災、 家内安全	7 月 14 日と 15 日に行われる八坂神社の祇園祭で奉納されます。明治初年、拝殿に人形や岩石花木などの飾り付けをして上演していましたが、日中戦争以降中断。1965(昭和 40)年に囃子だけが復活して現在に至っています。	福岡市指定 無形民俗文化財
元岡獅子舞	五穀豊穡、無病息災、 家内安全	青木・宇田川原と同型の旧糸島・早良郡下に流布していたとみられる演劇的要素の強い獅子舞。7 月 14 日と 15 日の八坂神社の祇園祭で奉納されます。また、不定期に上棟式・厄祝いなどに奉納されています。	福岡市指定 無形民俗文化財
山ほめ祭り	狩漁の御祭	以前は旧暦 2 月 15 日、11 月 15 日の春秋 2 回行われていましたが、現在は春を「山嘗種蒔漁獵祭」、秋を「山嘗漁獵祭」と称し、4 月 15 日と 11 月 15 日に行っています。神功皇后が三韓出兵の途次、対馬豊浦に滞在中、志賀の海士が海山の幸で饗応したという伝説にちなむ行事。	福岡県指定 有形民俗文化財
今津の 松ばやし	豊作豊漁	成人の日、貢ぎ物に見立てた張り子の人形や短冊を山車にのせて各町内を曳き回します。いつの時代から、神輿や「通りもん」が加わり、神事と結びついたかは不明。	指定なし
飯盛神社 祈念地祭 奉納神楽	五穀豊穡、無病息災、 子孫繁栄	豊前市大字久路土の清水八幡神社に伝わる神楽を伝承した黒土神楽が奉納されています。	指定なし

：生物多様性との関連が深い行事

：生物多様性と関連すると思われる行事

(4) 娯楽

昔から自然の風景や生きものなどの自然的要素が、都市に住む人々の娯楽の重要な要素となっています。

(千代松原)

博多湾の広大な松原の地で、古くから宮崎宮の神木の松の木として大切にされ、室町時代の連歌師宗^{そうぎ}祇も旅行記でその美しさを称えた名所。1587(天正 15) 年の豊臣秀吉の九州出兵では、博多商人も招かれた千利休の茶会が催されており、江戸時代には福岡藩に保護されています※³。

(愛宕権現)

貝原益軒の「筑前国続風土記」では、愛宕神社のある愛宕山は、『海陸山川のながめ廣くして勝れたる佳境地。大國に郊たる故に遊覧する人多し。』とされており、江戸時代の人々が多く訪れ、景観を楽しんでいたことがうかがえます。

(荒戸山)

貝原益軒の「筑前国続風土記」では、山頂からの景色が『誠にたぐひすくなき佳境なるべし』として、天橋立や厳島、和歌浦、須磨、吉野などとも『ならべかたし』と評されています。麓には、江戸時代に徳川家康を祀る東照宮が建てられており、奥村玉蘭の「筑前名所図絵」にも描かれています。



■荒戸山東照宮図

出典：筑前名所図絵 奥村玉蘭

※九州大学デジタルアーカイブより許可を得て転載

(鹿狩り)

能古島、志賀島は、江戸時代まで野生の鹿が生息し、殿様の狩り場となっていました。武士にとって、鹿狩りは、娯楽であるとともに軍事訓練の場でもありました。

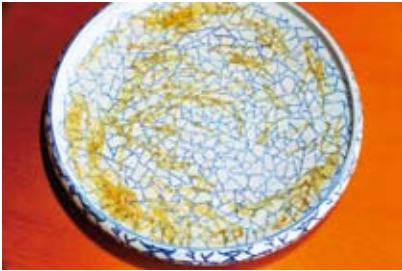
※ 3: 市史だより Fukuoka 第 10号

(5) 食文化

福岡市は、北は玄界灘に臨み、南には広大な福岡平野をひかえ、海の幸・山の幸が豊富にあり、それらが陸路水路を通じ行き交い、新鮮な食材が毎日手に入る都市でした。古くから庶民、商人は町の中でも季節感をもった食の暮らしを営み、豊かな食文化を築いてきました。

本市は、玄界灘の海の幸をはじめとして、もつ鍋や博多ラーメンなどの多彩な食の魅力を備えています。伝統的な食文化としては、博多雑煮、あぶっても、がめ煮、水炊きなどの郷土料理があり、シロウオやごまさばなどの新鮮な食材が手にはいるからこそ食される料理も多くあります。

■豊かな自然の恵みを使用した季節を感じる料理

シロウオ	特徴
	シロウオは室見川でとれる体長約 5cm の海水魚。2 月上旬から 4 月下旬に産卵のために海から川へ遡上してくるのをヤナ仕掛けでとる。シロウオのヤナ漁は江戸時代から行われ、現在も同じ漁法で行われている。料理法はおどり食いが代表的。他にも卵とじ、茶碗蒸し、吸い物、天ぷら、混ぜご飯などとして食べる。シロウオは、川の汚染や底質の泥質化に弱く、伏流水のある砂泥質のきれいな川でないと産卵しない。
あぶっても	特徴
	スズメダイに藻塩をして 12 時間程度置き、焼いたもの。スズメダイは南日本近海で生まれ、黒潮にのって北上する。明治後期、潮の加減でスズメダイの大群が筑前海沿岸に押し寄せた。処分に困り、とりあえず塩をして持ち帰り、火にあぶって食べたのが始まり。
おきゅうと	特徴
	おきゅうとの原料はエゴノリという紅藻。筑前沿岸から山口県沖、佐渡、能登半島と日本海沿いの水深 3 から 4m の海底に生え、初夏にとれる。乾燥したエゴノリを水に戻して洗い、熱湯で煮詰め、溶けたものを冷やし固めたものがおきゅうとである。短冊にきったおきゅうとに、削り節と醤油、酢醤油などをかけて食べる。
サバのゴマ醤油（ごまさば）	特徴
	マサバやゴマサバの刺身にゴマをあえたもの。醤油にワサビを混ぜ、好みでカボスなど柑橘類を落として食べる。2 種のサバは、季節的な南北回遊を繰り返し、対馬暖流の影響を受け九州沿岸で漁獲される。福岡市は漁港に恵まれた環境にあり、新鮮な魚が手に入るため、鮮度の落ちやすいサバを刺身で食べることができる。

写真：まるごと福岡・博多（福岡市）

博多雑煮、がめ煮、水炊き、博多うどんなどは、大陸の文化を上手に取り入れ、地元の食材を使用し、日本風にアレンジしたものです。歴史的背景から形成された発想力の柔軟性に富んだ博多の人の特質が表れた料理であるといえます。

■大陸の文化を取り入れた料理

博多雑煮 	特徴 ダシは、焼きアゴ、具はかつお菜、ブリ、シイタケ、サトイモなどが代表的である。ダシは、アゴではなく、焼きハゼを使う場合もある。 具の切り身魚は、ブリ、アラ、タイを入れる。近年では、エビ、鶏、焼き豆腐、ギンナンなどを入れるものもある。 ルーツは中国であり、それをアレンジし、豊かな海の幸や、地物の野菜が使用されている。
がめ煮 	特徴 鶏、サトイモ、ニンジン、レンコン、ゴボウなどを醤油で煮込んだもの。 本来のがめ煮は、コイ、ナマズ、コチ、ホウボウ、スズキなどの魚類、もしくは鶏を用いる中国の野菜煮である。 これを博多では、カジキマグロを使用し、やがて鶏が使用されるようになり定着した。 正月、博多祇園祭など祝いや祭りには欠かせない。
水炊き 	特徴 水炊きは、福岡市が発祥で、博多煮ともいわれる郷土料理。1905(明治 38)年、西欧料理のコンソメと中華料理の鶏のスープを日本風にアレンジしたものが起源である。 骨付きの若鶏を煮たすまし仕立てのスープに、鶏肉とキャベツ、季節の野菜などを入れ、これに博多特産のこうとうねぎが添えられる。 最後は雑炊でしめくくるのが普通である。
博多うどん 	特徴 博多は、日宋貿易の拠点として繁栄しており、その時代に中国へ修行に行った僧が製粉技術を持ち帰ってから、うどんなどの粉食文化が発展していった。 もともとは、筑後平野育ちの小麦の麺に、玄界灘特産のイリコ、アゴ、江戸の北前船で運ばれた北海道産の羅臼昆布を使用したダシ、自然塩を使用していた。

写真：まるごと福岡・博多（福岡市）

博多野菜は、京野菜、加賀野菜と並び、三大地方野菜の一つに挙げられています。もともとあったもの、大陸から伝えられたものなど、博多の食文化と密接にかかわりながら地方独特の農産物が栽培されてきました。

また、近年では、福岡ブランドである「博多あまおう(イチゴ)」、「博多万能ネギ」、「博多のトマト」、「福岡^{つばみな}蓄菜」、「博多米」、「ふくおか市民米」などの農産物をはじめ、「金印汐わかめ」、「唐泊恵比須かき」などが、福岡の味覚として親しまれています。

博多野菜	特徴
 博多蓄菜	博多野菜は、京野菜、加賀野菜と並び三大地方野菜のひとつ。 もともとあったもの、大陸から伝えられたものなど、博多の食文化と密接にかかわりながら、地方独特の農産物として栽培されてきた。 例えば、かつお菜は博多野菜の一つで、福岡の雑煮には欠かせない具である。 他に、博多蓄菜、博多据蕪、博多長なすなどがあり、近年では、一個 40g にもなる大きなイチゴ「あまおう」が有名である。

写真：福岡県だより 2010.1「ふくおかなウ No.75」

消費の内容は地形や気候による各地の文化の違いから大きく異なるといわれていますが、2009(平成 21) 年の家計調査による都道府県庁所在市別(川崎市、浜松市、堺市、北九州市を含む)の「食料」の消費品目別データでは、本市は、いわしが第 10位、さばが第 4位、たいが第 8位、たらこが第 2位となっており、市民の海産物に関する消費趣向の高さがうかがえます。

■平成 21 年平均支出ランキング（家計調査）

【いわし】	【さば】	【たい】	【たらこ】	【鶏肉】
全国 608円	全国 1,155円	全国 1,321円	全国 2,888円	全国 12,615円
1位 鳥取市 1,543円	1位 和歌山市 2,398円	1位 熊本市 4,468円	1位 北九州市 8,702円	1位 鹿児島市 17,808円
2位 松江市 1,363円	2位 松江市 2,349円	2位 佐賀市 4,053円	2位 福岡市 8,367円	2位 大分市 16,600円
3位 大分市 1,214円	3位 北九州市 2,188円	3位 神戸市 3,449円	3位 長野市 5,541円	3位 京都市 16,420円
4位 鹿児島市 1,186円	4位 福岡市 1,877円	4位 北九州市 3,168円	4位 新潟市 4,946円	4位 山口市 16,411円
5位 長崎市 1,133円	5位 大分市 1,765円	5位 京都市 3,067円	5位 さいたま市 4,672円	5位 福岡市 16,397円
6位 宮崎市 1,100円	6位 高知市 1,688円	6位 長崎市 2,819円	6位 青森市 4,431円	6位 宮崎市 16,003円
7位 広島市 1,079円	7位 宮崎市 1,633円	7位 大分市 2,709円	7位 甲府市 4,048円	7位 北九州市 15,992円
8位 北九州市 1,038円	8位 金沢市 1,614円	8位 福岡市 2,669円	8位 前橋市 4,043円	8位 熊本市 15,975円
9位 金沢市 947円	9位 山口市 1,609円	9位 堺市 2,616円	9位 千葉市 4,002円	9位 神戸市 15,549円
10位 福岡市 855円	10位 堺市 1,585円	10位 奈良市 2,497円	10位 京都市 3,633円	10位 奈良市 15,302円

出典：ふくおかの統計（月報）平成 22 年 10 月号

(6) 人とかかわりの中で形成された多様な自然

古くから人々が自然環境に働きかけ利用することで、現在の自然環境が形成されてきました。現在、目にする「自然」の多くは、人為的な働きかけのもとで形成されてきたもので、それにより多様な自然が形成されてきました。

(松並木)

現在も、生の松原には、白砂青松百選の一つにも選ばれている白砂と松林の美しい景観が広がっています。現在はなくなってしまいましたが、百道の松原や地藏松原など、博多湾の海岸線に沿って松林が続いていました。

しかし、これは、自然に形成されたものではなく、江戸時代に防砂や防風を目的として、組織的な植林が進められた結果、形成されたものです。当時、こうした松原では、付近の住民によって松葉かきが行われ、集められた落ち松葉は燃料として利用されていました。砂浜の背後の松林は自然の景観のようにみえますが、これらも人為的に維持されてきたもののなのです※4。

(里山)

現在、市内にある林の多くは、古くから薪炭林^{しんたん}として利用されてきた里山です。里山は、木材の供給源としてだけでなく、落ち葉や下生えは田畑の肥料として、また食料採集の場として利用され、持続的な自然資源利用・管理の仕組みが成立していました。

現在、市内でまとまったアカマツ林が残っているのは、油山周辺ですが、かつては、薪炭林や用材林として、各地の山麓、丘陵部で普通にみられ、植林された林も多くありました。

しかし、アカマツの用途がなくなり、手入れもされなくなった現在、潜在植生である照葉樹林へと遷移していき、アカマツ林は衰退してほとんど姿を消しています。

林は、里山として人に利用されることで、多様な植生を維持していたのです。

※ 4: 日本の自然 地域編 7 九州, 1995年, 内嶋

(ため池)

弥生時代から古墳時代にかけての遺跡からも、井堰や貯水池の構築物などが発見されていて、稲作農業の広がりにもとない、古くからため池がつくられていたことがうかがえます。現在残っているため池も、農業の発達とともに、利水・治水のため、つくられたものと考えられます。

南区にある野間大池は、「筑前国続風土記拾遺」にすでに記載があり、古くから農業用水、水害用のため池として利用されていたようです。昭和の初め頃までは、みごとな蓮が一面に広がり、秋にはそこから取れる蓮根が村祭りのがめ煮用に使われ、福岡の町にも売りに出されていました。

また、フナ、ナマズ、ドジョウ、ウナギ等がよく獲れ、子ども達のいい魚獲り場にもなっていました※⁵。

このようにため池は、本来の利水・治水のためだけでなく、さまざまな生きものを育くみ、人々は、それを上手に活用して生活してきたものです。

現在では、これらのため池も利用されることは少なくなり、住宅街の中に取り残されたため池も多くみられますが、そのようなため池の中には、動植物にとって重要な生息・生育地となっているものもあります。

(鎮守の森)

古くから商都として栄えてきた本市は人口も多く、江戸時代の里山は、過剰利用の状況にあり、伐採されてしまった山もあります。

しかし、鎮守の森は、信仰の対象として伐採されることもなく、その時代にも豊かな緑を保ってきました。現在も市内に点在する鎮守の森は、周囲の林より一回り大きい大木の茂る林として、市街地にあっては、貴重な緑として存在しています。

(参考)『里海』～取り組みが進む新たな人と自然のかかわり～

自然生態系と調和しつつ人手を適切に加えることにより、高い生産性と生物多様性の保全が図られている海を「里海」といい、2011(平成 23)年 3月に策定された海洋生物多様性保全戦略でも取り上げられています。

矢部川流域における山林の保護と河川及び有明海の再生や、松食い虫被害によって枯れた松林に抵抗性松を植栽することによる豊かな玄海の漁場創設など、福岡県内においても「里海」の保全や再生の取り組みが進められています。

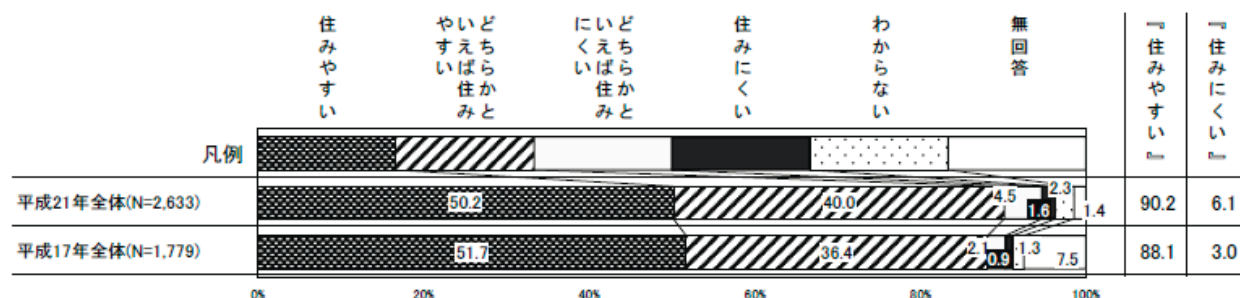
本市では、今津干潟において「里海保全再生事業」に取り組んでいます。

※ 5: ふくおか歴史散歩 第二巻、1982年、福岡市

2. 生物多様性に支えられた福岡市の魅力

(1) 市民にとっての福岡市の魅力

本市は「住みやすいまち」というイメージが定着しています。2009(平成 21) 年度市政に関する意識調査※ 6においても、市民の 90.2%が「住みやすい(どちらかといえば住みやすいを含む)」と回答しており、本市の「住みやすさ」があらためて実証されました。



■総合的な福岡市の住みやすさ

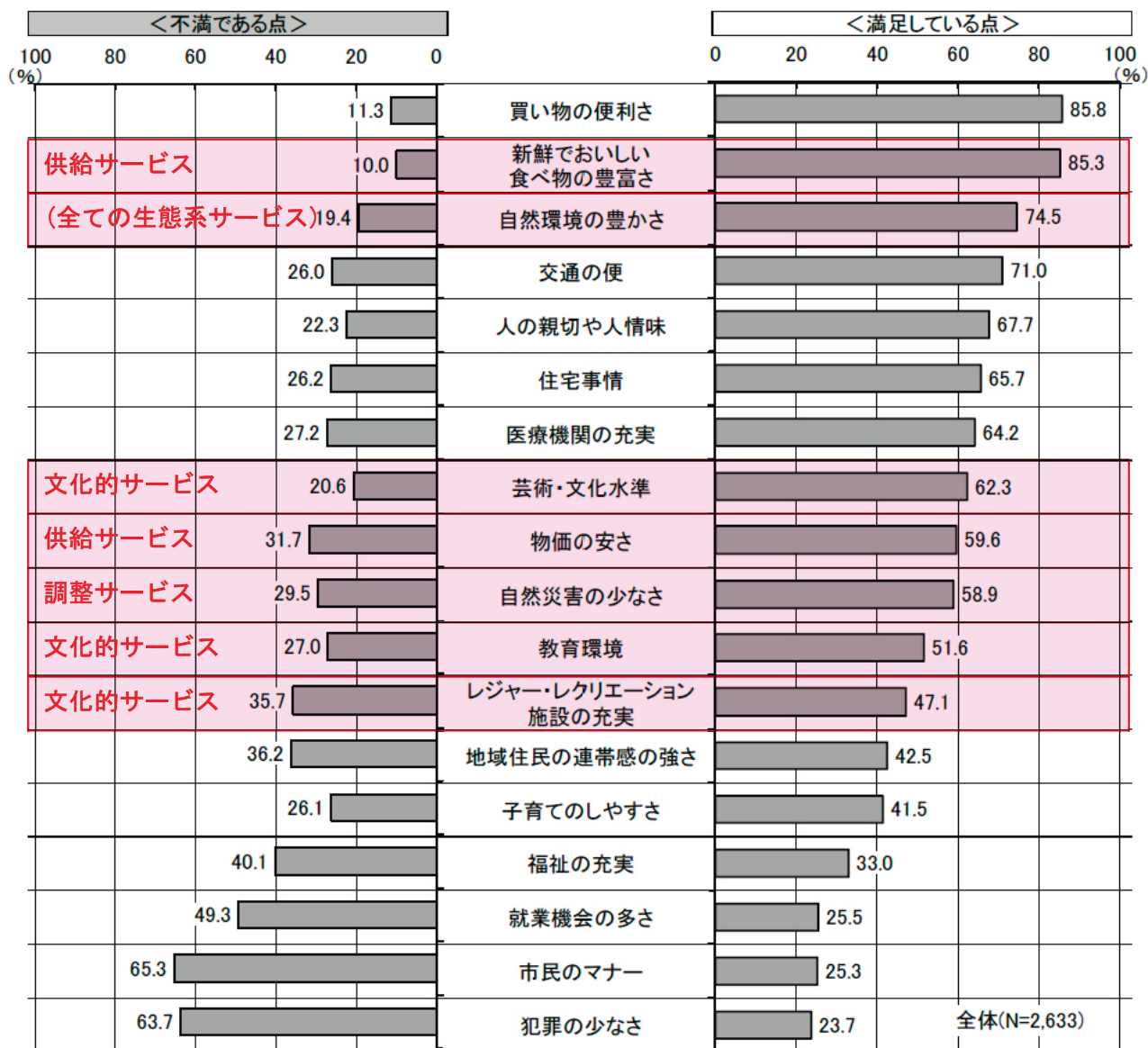
出典：平成 21 年度市政に関する意識調査（福岡市）

同調査において、本市の都市環境についての満足度が把握されています。設問項目 18項目のうち 13項目において、満足している人の割合が高いという調査結果が示されており、これらが、本市の住みやすさをつくる要因となっているものと考えられます。

特に、「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」、「自然環境の豊かさ」、「芸術・文化水準」、「自然災害の少なさ」、「教育環境」、「レジャー・レクリエーション施設の充実」は、私たちが生態多様性から享受する恵み(生態系サービス) との関係性が強い項目です。

次項では、「福岡市の住みやすさ」を支えている生態系サービスについて示します。

※ 6:平成 21年度市政に関する意識調査:平成 21年 8月 19日から 9月 1日にかけて、市内に居住する満 20歳以上の男女 4,500 人を対象に実施されたアンケート調査。回収率は 58.5%。



■福岡市の都市環境についての満足度と生態系サービスの関係

資料：平成 21 年度市政に関する意識調査（福岡市）

(2) 福岡市の魅力を支える生態系サービス

1) 供給サービス

私たちは、供給サービスとして、農産物、畜産物、水産物、山菜等の野生の食物などの食料や、木材、バイオマス資源、そして、生活用水となる淡水のような、生活に有用なさまざまな生産物を得ています。

アンケートによって満足度の高い項目として示された「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」は、まさに、供給サービスの最たるものです。「物価の安さ」についても、生活に有用なさまざまな生産物を安価に入手できる環境にあるという点に、この供給サービスとの関係があります。

本市の農業は、いわゆる都市型農業が主体となっています。都市部での消費を見込んで、鮮度が大切な野菜や花卉^{かき}の生産が行われ、農業生産額では、全体の 10,742 百万円(2010(平成 22) 年)の約 6割を占めています。

「博多」を冠する博多あまおうや博多のトマトなどは、本市の主要農産物として親しまれています。なお、主要穀物である米は、約 1割です。

さらに、本市から自動車で 1 時間内外の場所に、農産物の生産地であり、漁業も盛んな糸島地域や宗像地域が位置しており、食料の一大消費地である本市にはこれらの地域から新鮮な農産物や海産物などが運ばれてきます。

また、本市は、九州随一の穀倉地帯である筑後平野(佐賀県、福岡県朝倉地域など)にも近く、これらの地域からも多くの農産物が運ばれてきています。

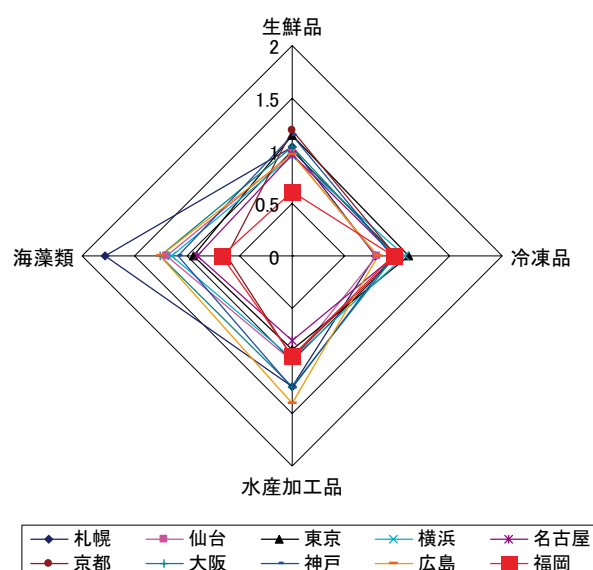
水産物については、本市は、全国一の取扱額を誇る博多漁港と水産物流拠点である鮮魚市場を有しています。水産資源の豊かな博多湾、玄界灘に面しており、多種類の魚介類を沖合・沿岸域で漁獲しています。二双ごち網や刺網などによる漁業のほか、採貝、採藻、ノリ・ワカメ・カキの養殖が営まれ、本市における沖合・沿岸漁業の生産額は、4,078 百万円(2008(平成 20) 年)となっています。

このように生産地と大消費地が共存している都市は、全国的にも珍しい例です。

右図は、主要 10 都市の中央卸売市場における水産物の卸売単価について示したものです(10 都市平均を 1.00 とする指数で表示)。本市は、他の都市に比べて、特に、生鮮品(指数 0.61)、海藻類(指数 0.68)を安価に調達できることが分かります。

新鮮な海産物を安価に入手できることも、本市の魅力となっています。

「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」、「物価の安さ」という本市のイメージは、これらの農産物や水産物によるところが大きいと考えられます。



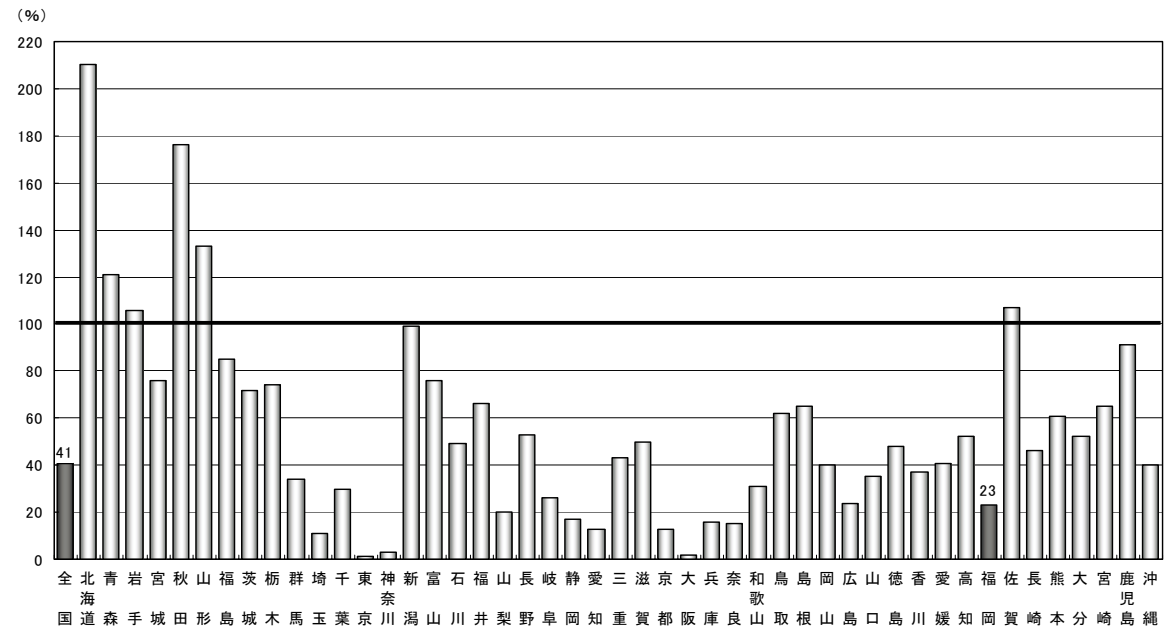
■水産物の 10 都市中央卸売市場別卸売単価
(10 都市平均=1.00 とする指数)

資料：平成 18 年水産物流通統計年報

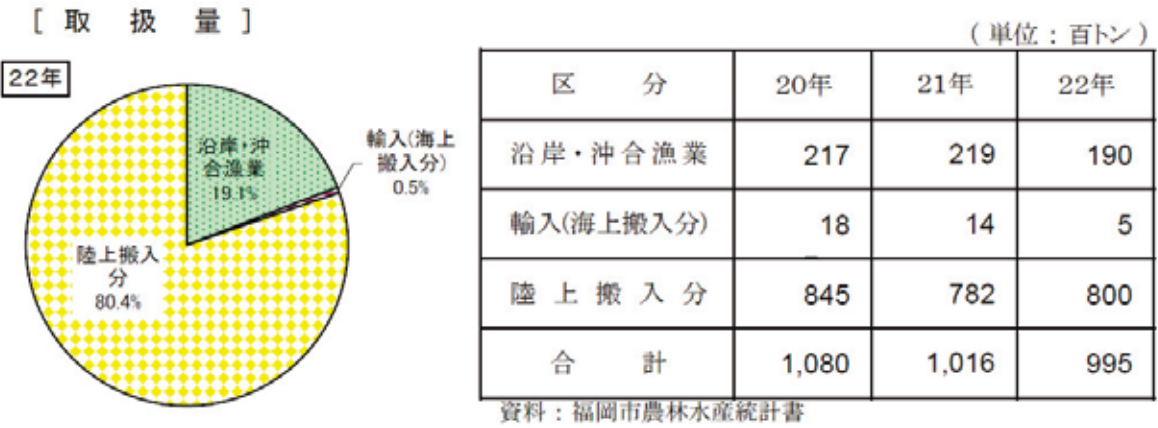
しかし、都道府県別の食料自給率(供給熱量ベース)をみると、福岡県の食料自給率は、2008(平成 20) 年時点で、約 23%となっており、わが国の食料自給率 41%の約半分です。福岡県では、県民が消費する食料の約 8割を移入品・輸入品で賄っている状況であり、人口集積地である本市は、さらに高い割合になることが推察されます。

また、博多漁港で取り扱われる水産物について、現在は、他県からの陸上搬入が大きな割合を占めています。

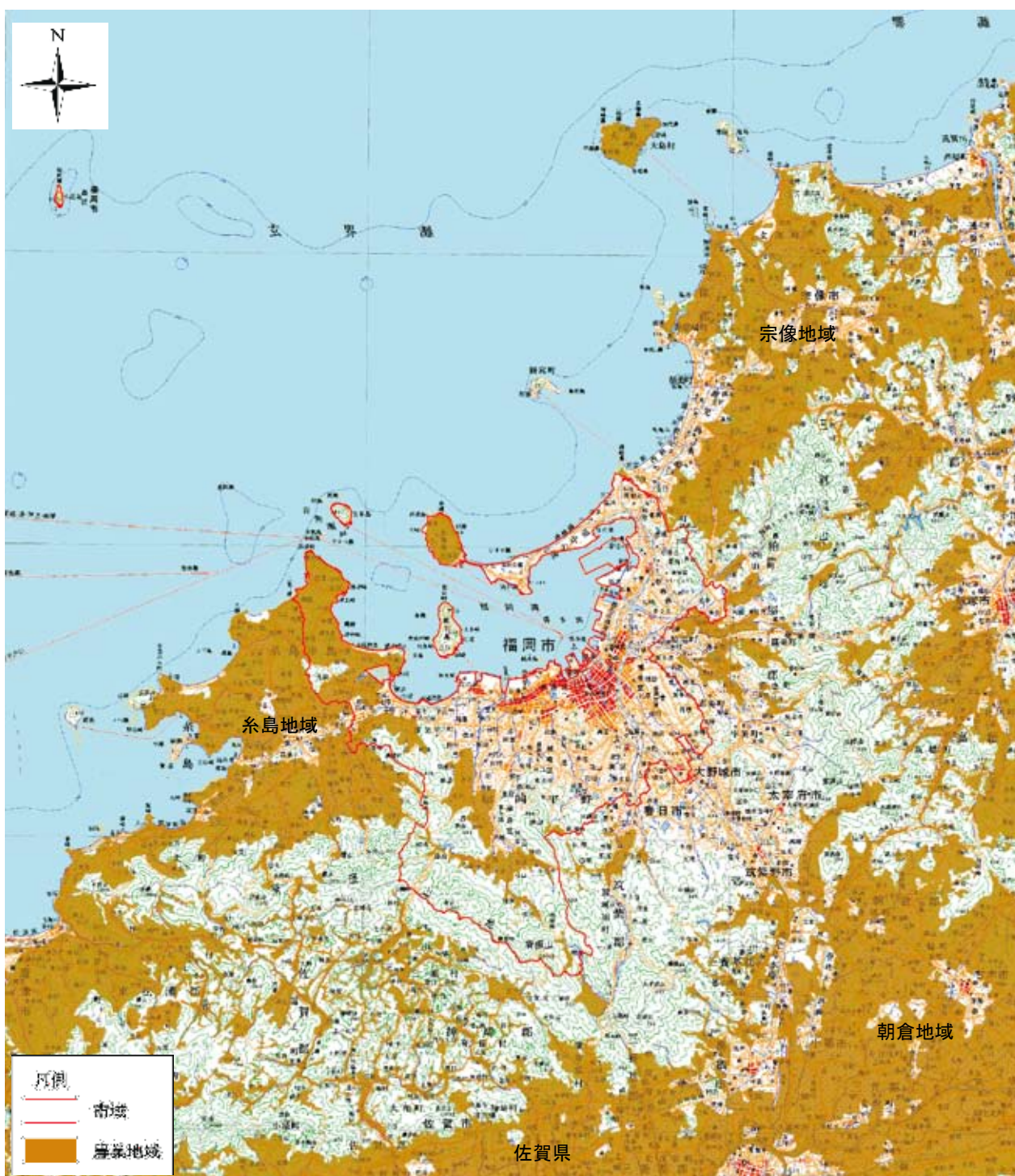
このように、地元で生産される「新鮮でおいしい食べ物」は、必ずしも日常的に食されるほどの生産量ではありませんが、本市のイメージアップにつながる重要な要素となっています。



■都道府県別食料自給率(2008 (平成 20) 年度)
 資料：農林水産省食料自給率資料室資料



■博多漁港における水産物の取扱量とその割合（平成 22 年）
 出典：福岡市の農林水産業（2012 年、福岡市農林水産局）



■農業地域の分布

備考：国土利用計画法土地利用基本計画に基づく農業地域（平成 18 年度）を表示

資料：国土数値情報

(参考) 福岡市民の消費を支えるために必要な農地(耕作地)、森林の面積について

人間活動の天然資源消費による負荷の大きさを示す指標として、エコロジカル・フットプリント (EF) という考え方があります。これは、人間の社会で消費される食料、木材 (繊維)、資源の生産に必要な土地面積、エネルギー消費による CO₂を吸収するための土地面積 (森林面積)、インフラストラクチャー・構造物に使用されている面積の合計値を算出するものです※⁷。

日本の資源消費を支えるために必要となっている EF は、同志社大学の和田教授によって 1999 (平成 11) 年に発表されています。その計算結果は、以下のとおりです。

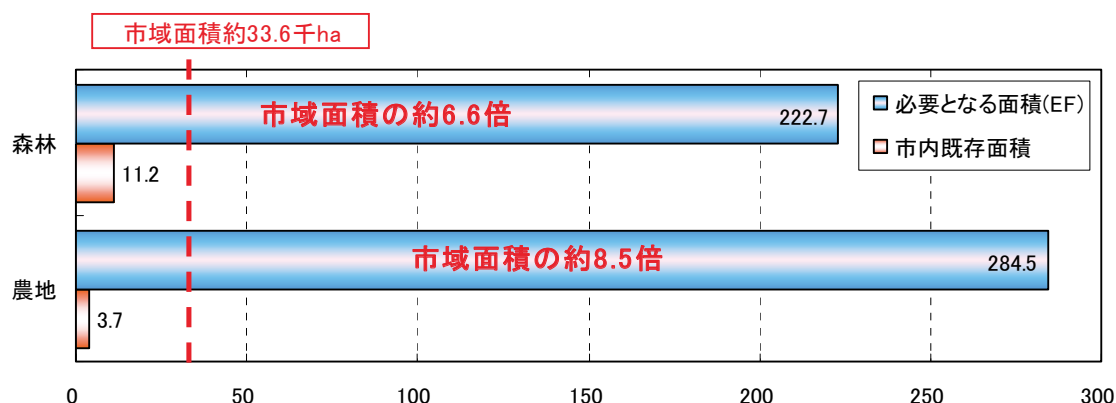
■日本人の消費のエコロジカル・フットプリント

(主に1990/91年値)	日本人全体の エコロジカル・ フットプリント	国内 現存面積	対国内 現存面積比	一人当たり エコロジカル・ フットプリント	世界平均 一人当たり 公平割当面積
土地分類	百万ha	百万ha	倍	ha	ha
農地 (耕作地)	28.1	4.4	6.4	0.23	
牧草地	21.5	0.8	26.9	0.17	
森林地	22.2	25.3	0.9	0.18	
CO ₂ 吸収地 (国内排出分)	199.3	25.3	7.9	1.61	
CO ₂ 吸収地 (海外排出分)	70.4	25.3	2.8	0.57	
生産能力阻害地	4.3	4.3	1.0	0.03	
陸地エコロジカル・フットプリント合計	345.8	-	9.2	2.80	1.51
海洋淡水域エコロジカル・フットプリント合計	234.5	-	6.2	1.90	0.51*
総計	580.3	37.8	15.4	4.70	2.02

(*この数値計算は、和田およびS.Latham による)

出典：サステナビリティの科学的基礎に関する調査報告書 (2005 年、RSBS)

仮に、上表に示した「一人当たりのエコロジカル・フットプリント」の値を用いて、福岡市民の消費を支えるために必要な農地(耕作地)、森林(人工林)の面積について試算すると、福岡市民の消費を賄うためには、農地(耕作地)は市域面積の約 8.5 倍、森林は市域面積の約 6.6 倍が必要ということになります。



■福岡市民の消費を支えるために必要な農地 (耕作地)、森林の面積 (1990 (平成 2) 年値の試算)

※ 7: サステナビリティの科学的基礎に関する調査報告書 (2005 年、RSBS)

2) 文化的サービス

私たちは、文化的サービスとして、五穀豊穡を祝う祭り・伝統芸能や食文化などの文化的多様性、鎮守の森などの精神的・宗教的価値、自然とのふれあい活動などによる教育的価値、自然公園・名勝にみられるような審美的価値、天然記念物などの文化的遺産価値、公園利用などを通じたレクリエーションやエコツーリズムといったサービスを受けています。

アンケートによって満足度の高い項目として示された「芸術・文化水準」、「教育環境」、「レジャー・レクリエーション施設の充実」については、この文化的サービスと関係があります。

文化的サービスの海の拠点ともいえる海の中道には、「海の中道海浜公園」や水族館「マリンワールド海の中道」、「雁の巣レクリエーションセンター」など多くの施設が集積しており、レジャー・レクリエーション、自然体験などの環境学習が盛んに行われています。

そして、市の南側の山地には、「油山市民の森」のほか、脊振山系の尾根部を中心に複数の登山コースやキャンプ場があり、山の自然を楽しむことができる環境にあります。

また、玄海国定公園に指定されている玄界灘沿岸は、白砂青松の海岸が展開する海岸景勝地であり、博多湾を抱く細長い半島・海の中道とともに、本市のシンボルともいえる優れた自然景観となっています。名所旧跡も多く、本市を訪れる観光客にとっても魅力的な観光スポットともなっています。



■海の中道

写真：(財)福岡観光コンベンションビューロー



■白砂青松の海岸（玄海国定公園）

写真：福岡市教育委員会

このほか、レジャー・レクリエーション施設ばかりでなく、潮干狩りなどを楽しめる自然環境が残されている点も本市の魅力となっています。

例えば、自然海岸では釣りや海水浴、潮干狩り、バードウォッチングなど、山地では登山、ハイキング、キャンプなど多様な自然レクリエーションのフィールドがあります。

本市は、市街地と自然環境が近接しているコンパクトな都市構造であり、優れた自然環境である海、山、そしてレジャー・レクリエーション施設へのアクセス性が高く、自然環境に親しみやすい都市です。

そして、周辺地域にも、唐津から宗像にかけての玄界灘、佐賀県に接する脊振山地や糟屋郡の三郡山地など、海と山の自然が、市街地から自動車で1時間ほどの場所に広がっています。

このような都市環境にある本市では、都市的サービスが充実した市街地に居住しながら、容易に自然環境に触れることができる点が、アンケートにおいて「自然環境の豊かさ」が評価されている要因の一つになっているものと思われます。

また、本市は従来より第三次産業に傾斜した産業構造であったため、鉱工業を中心に経済発展を遂げたわが国の都市の中では、過度に環境を悪化させる要因が少なかったこともあり、市域及び周辺地域に良好な自然が保たれています。



■室見川河口（潮干狩りの様子）

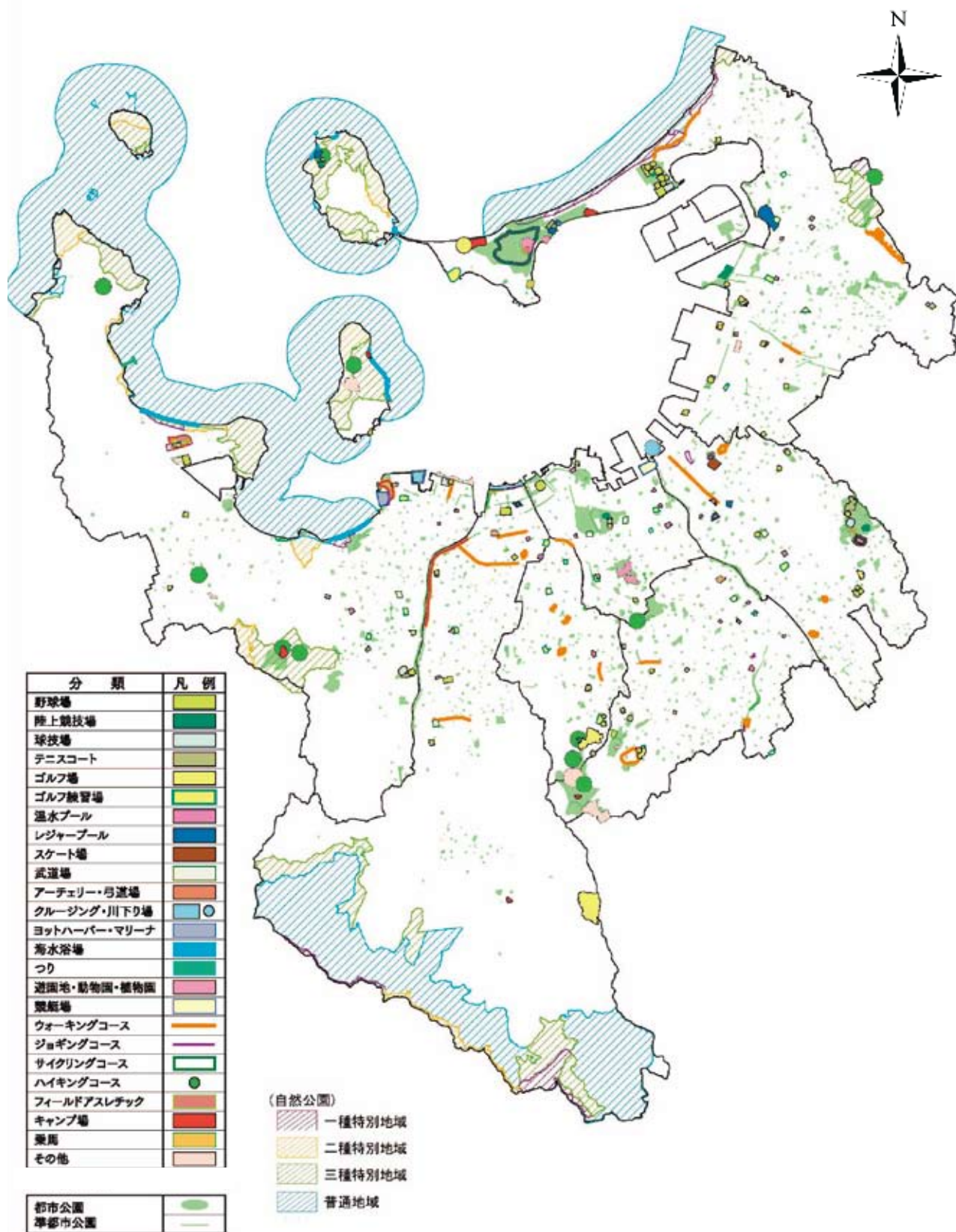


■姉子の浜（糸島市）

出典：糸島市ホームページ



■宝満山の登山道（太宰府市）



■公園・緑地等の分布

資料：福岡市環境局GISデータ、福岡市新・緑の基本計画（2009年、福岡市住宅都市局）



[凡例]

標高区分	0m～10m
	10m～20m
	20m～40m
	40m～60m
	60m～80m
	80m～100m
	100m以上

水面 主な山岳

自然レクリエーションが行われている主な場所

■ 自然レクリエーションが行われている主な場所

資料：福岡市環境局GISデータ、福岡市新・緑の基本計画（2009年、福岡市住宅都市局）

(3) 快適な生活を支える生態系サービス

1) 基盤サービス

基盤サービスは、他の生態系サービスの産出にとって必要なサービスです。生息・生育地の供給、栄養循環、土壌形成、大気中酸素の生産、水循環といった一次生産や、物質循環のことをいいます。生態系サービスの他の3つ(供給サービス、文化的サービス、調整サービス)は全て、この基盤サービスによって支えられています。

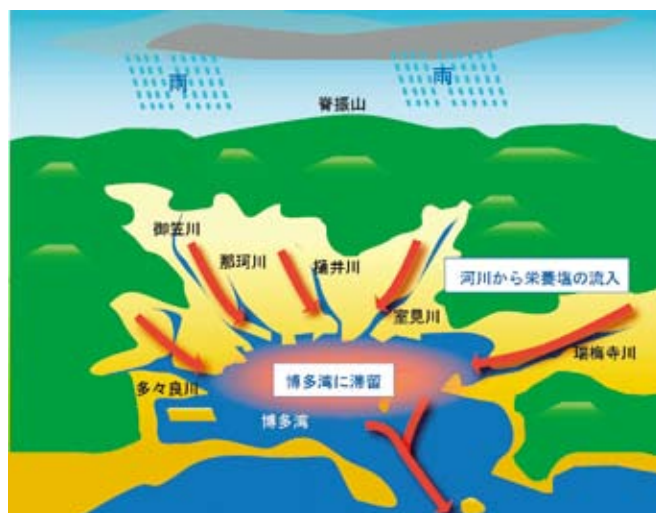
そして、近年の人間活動の増大による環境問題は、人間活動による^{かくらん}攪乱によって、基盤サービスにあたる物質循環やエネルギーの流れのバランスが崩れることが根本的な要因となっているともいわれています※8。

例えば、本市の地形は、博多湾とこれを取り囲む脊振山地、三郡山地に囲まれた半月型の沖積平野という地形に特徴があり、山地や平野部の環境変化が水循環を通して博多湾の水質や底質、そこに生息する生きものに影響を与えます。

博多湾では、富栄養化にともなう有機汚濁が発生することがありますが、これは、梅雨時期などにおける陸域からの栄養塩類の流入の増加にともなって植物プランクトンが増殖し、水中の有機物濃度が高くなるために発生します。

さらに、水温や日射量の上昇によって植物プランクトンの繁殖が活発になると、その密度が高くなり赤潮になるのです※9。

本市を含む博多湾流域では、都市の発展にともなって、土地利用や市民のライフスタイルが変化してきており、栄養塩類などの物質循環には、この流域全体の環境変化が関係しているものと考えられます。



■水循環（博多湾への栄養塩の流入）



■博多湾流域

出典：博多湾環境保全計画（2008年、福岡市環境局）

※ 8: 平成 22年版環境・循環型社会・生物多様性白書

※ 9: 博多湾環境保全計画(2008年、福岡市環境局)

2) 調整サービス

森林や農地など自然被覆面があることによって、気候が緩和・調整されたり、洪水が起こりにくくなったり、水が浄化されたり、大気質が調整されたり、私たちの生活環境を安全、快適に保つ効果があります。

また、海洋は気候の急激な変化を緩和するとともに大量の炭素を貯蔵し、二酸化炭素の吸収源として機能することにより地球温暖化の防止にも貢献しています。

このような、私たちの快適な生活を支える生態系の機能のことを、調整サービスといいます。

前述のアンケート調査によって満足度の高い項目として示された「自然災害の少なさ」は、調整サービスと関係があります。

例えば、緑地には、蒸発散作用により地表面の高温化を防ぎ、周辺の空気を冷やす効果があるため、夏期の高温時にも緑被率の高い山間部や島しょ部では気候が安定しています。

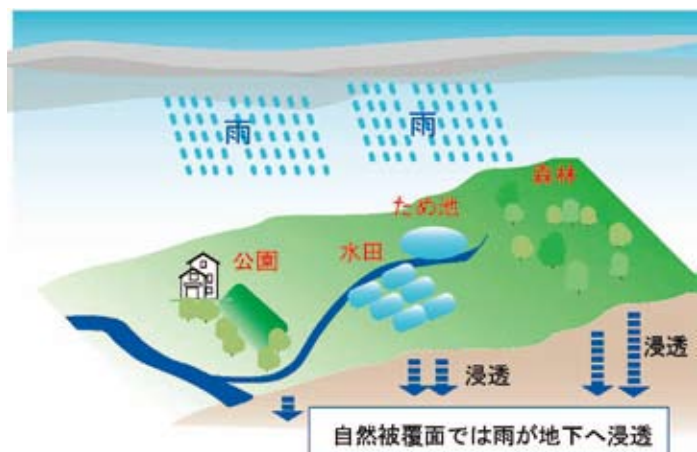
一方、緑地の少ない市街地では、郊外に比べて気温が上昇するヒートアイランド現象が発生し、都市の快適性を損ねている場合があります。

また、自然被覆面は降雨を保水するため、山間部や田畑などが多い場所では、急激な河川の増水は発生しにくく、自然被覆面の少ない市街地では、降雨が保水されずに直接河川に流入するため、想定雨量を超えた場合には、一気に氾濫してしまうという事態も発生します。

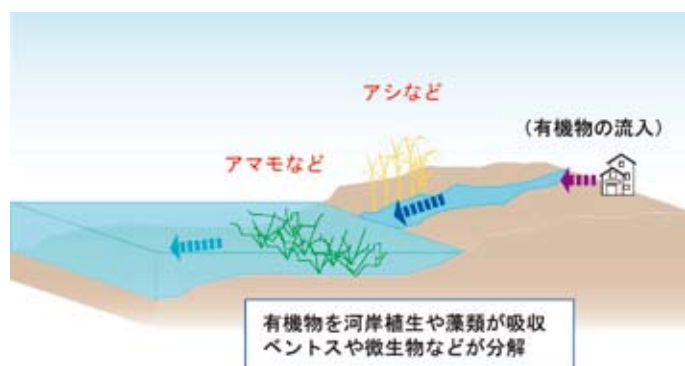
このほか、河畔にヨシなどの植物が繁茂している自然護岸の河川や干潟は、汚濁負荷が直接海に流れ出し急激に有機物等の濃度が上がることを防ぐ緩衝作用があり、海域の水質悪化を和らげています。



■緑地による気温安定



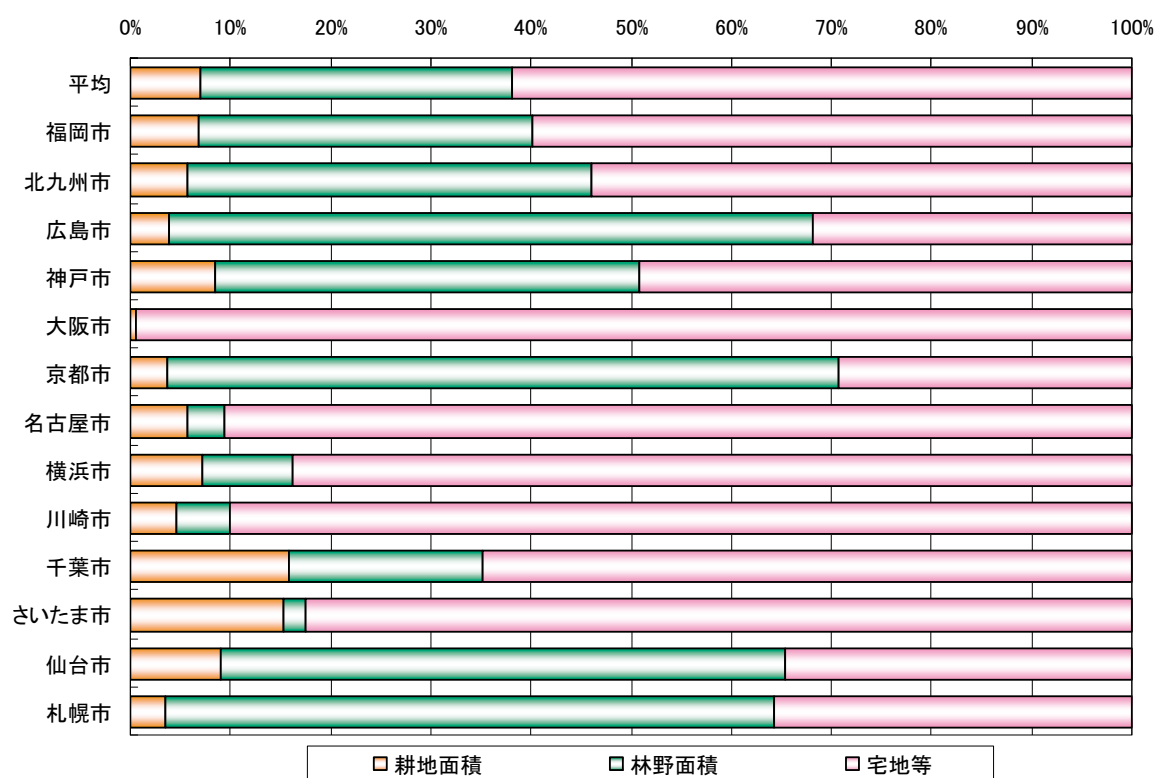
■自然被覆面による降雨の保水



■自然河川や干潟による水質浄化

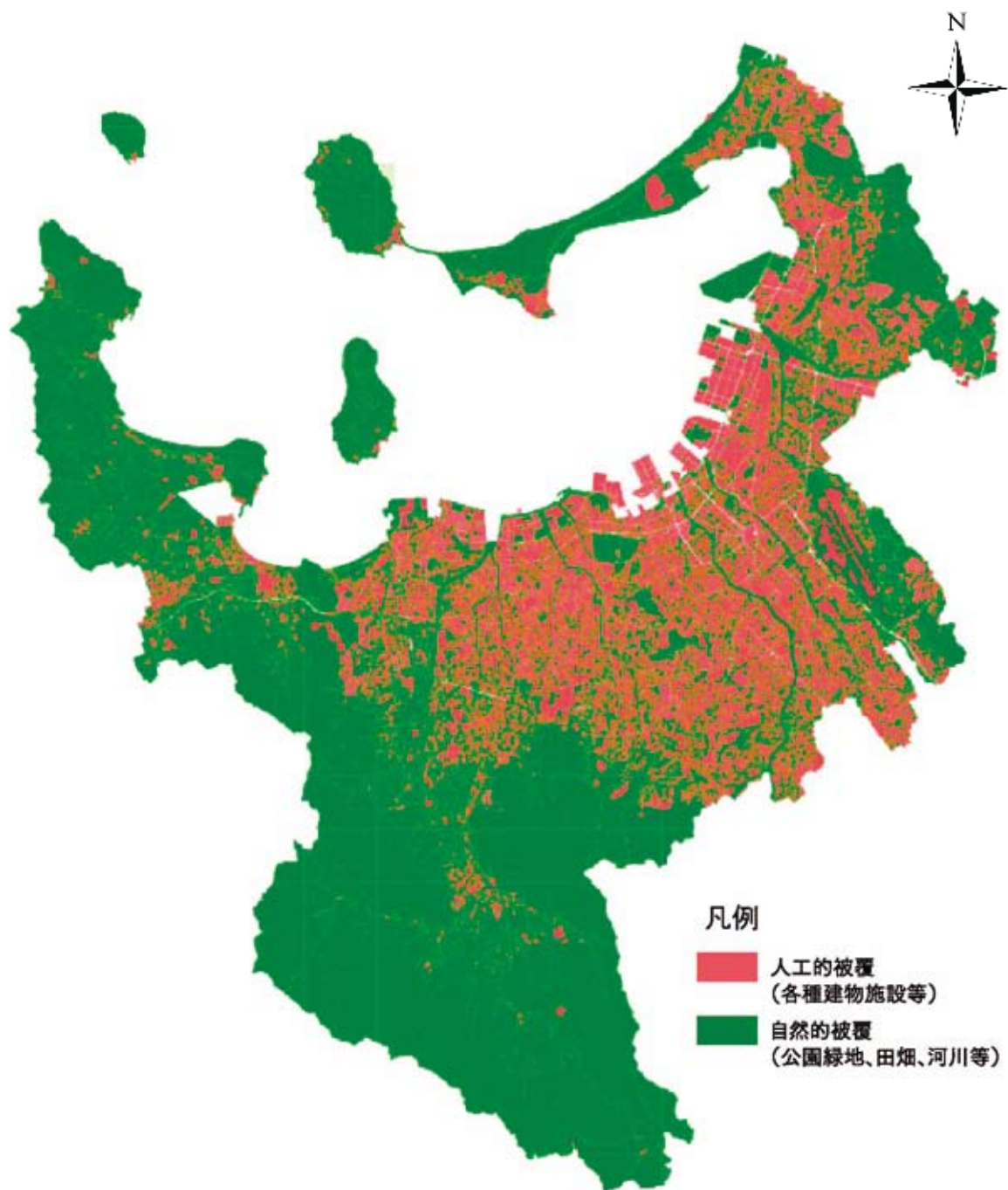
下図は、政令指定都市の土地利用面積構成を比較したものです。本市は、耕地面積、林野面積、宅地等の構成比が、政令指定都市の平均的な構成比と同程度となっています。

本市は、都市化が進行したとはいえ、関東圏、関西圏の大都市に比べると耕地面積、林野面積の比率が高く、これらが、調整サービスの機能を高め、快適な生活環境をつくる要因の一つになっているものと考えられます。



■土地利用面積構成比

資料：耕地面積、林野面積は、農林水産省統計情報部資料（2004年）
宅地等は、大都市比較統計年表（2002年）より算出



■土地被覆状況区分図

出典：福岡市ヒートアイランド対策検討業務報告書（2004年、環境局）
原資料：福岡市街区データ